

## 審議結果

審議会等名称：総合計画審議会第86回計画推進評価部会・第18回計画策定専門部会

開催日時：令和元年5月30日（木）18:00～20:00

開催場所：神奈川県庁本庁舎 3階 大会議場

出席者：◎牛山久仁彦、関ふ佐子、能登ゆか、平田美智子、朱銘江、杉田敦、伊達仁人、中西正彦、  
原嶋洋平、松行美帆子、矢島洋子、今井敏之助、岩田知二〔計13名〕  
（◎部会長）

次回開催予定日：未定

問合せ先：政策局政策部総合政策課計画グループ 小澤

電話番号045-210-1111（内線3065） ファックス番号045-210-8819

---

### 審議経過（議事録）

議題1 「かながわランドデザイン 第3期実施計画（案）」について

《資料1「かながわランドデザイン 第3期実施計画 プロジェクト編（案）」、資料2「かながわランドデザイン 第3期実施計画 主要施策・計画推進編（案）」、参考資料1「第85回計画推進評価部会・第17回計画策定専門部会（平成31年4月19日開催）における意見と対応」、参考資料2「第127回総合計画審議会（令和元年5月22日開催）における意見と対応」、参考資料3「『かながわランドデザイン 第3期実施計画（素案）』に関する県民意見募集等の概要」について事務局から説明》

- 牛山部会長：ありがとうございました。皆様からいただいたご意見や審議会での意見などを踏まえて案として説明していただいたところです。本日皆様からご意見をいただき、再び総合計画審議会の方へ意見をあげて、案として確定していく段取りになります。本日までに修正されたご意見、審議会でのいただいた意見などの点を中心にご意見をいただければと思います。ご発言がある方は挙手をお願いします。
- 矢島委員：ご対応いただきありがとうございました。70ページ、71ページのSDGsの表は説明がされていて、わかりやすくなっていると思います。70ページの表のつくりですが、一番左側の端にSDGsの17のゴールがあり、これに対応して県の主な取組みが記載されていますが、さらに右側に関連するSDGsのゴールに○がついており、分かりづらくなっていると思います。説明の文章は、県の主な取組みにその右側のSDGsのゴールが結びつくかについての説明になっているので、左側の17のゴールがあることによって逆に理解しづらくなっていると思います。もともとの意図として、17のゴールすべてに県の施策が対応していることを示したかったと思います。改善案としては2つ案があると思っています。1つが、左側に17のゴールを記載して、その横に県の取組みを主なものだけでなく、紐づく施策をすべて紹介していくこと。もう1つの案は、左側の17のゴールは削除してしまい、県の主な取組みに対し17のゴールを紐づける説明にすること。そちらのほうが理解しやすいと思います。
- 牛山部会長：ありがとうございます。ただ今のご意見について事務局はいかがでしょうか。
- 中谷政策部長：ご意見いただきありがとうございます。この表の趣旨は、委員が発言されたとおり、17のゴールに県の主な取組みが紐づいており、更にその先にも複数のゴールがつながっていることを示したかったためです。試行錯誤の結果、今の表になっています。いただいた意見をふまえて最終案を示したいと思っています。17のゴール1つ1つに県の取組みがあるのかを選定しましたが、左側の主な取組みだけで表現できていると思えばできていますが、1つのゴールに向かう取組みが複数のゴールにつながっていることを伝えた方がいいだろうということを表示し、右側にその意味を解説させていただきました。委員から2案を示していただいたのでその案を含めて、最終的な案を考えさせていただきますが、最終的な案も

のについては県民にわかりやすい資料にしていきたいと思っています。

- **牛山部会長**：矢島委員いかがでしょうか。
- **矢島委員**：何を伝えたいのかが混乱すると思います。SDG sのゴールに対して、県が取り組んでいるプロジェクトで他にも紐づくものがあると思いますが、色々な角度、取組みから目標を達成することを表現するのが大事なのか、1つの取組みが色々な目的を持っていることが分かるのが大事なのかだと思います。最終的にはご判断いただければと思います。
- **中谷政策部長**：素案の時には、1つの取組みが複数のゴールにかかっていることを記載しました。ページが限られている中で、今回の最終案においては全てのゴールを説明するという考えを重視して、17のゴールを並べました。繰り返しになりますが今いただいたご意見を踏まえて最終的な判断をさせていただきたいと思っています。
- **伊達委員**：今の意見の関連です。このページをどのような表現にするかについてです。まず、SDG sの歴史的な背景や何でSDG sがでてきたのか。また、MDG sがあつてPRIやESG投資という言葉が出てきたことで、その評価が見えてきました。その中でSDG sを推し進めることで2030年にどれだけの経済効果が生まれてくるのか、それをベースにして波及を目指していこうというのがそもそものSDG sです。SDG sは、MDG sの様に発展途上国への救済というものではなく、各国が先進国であろうが発展途上国であろうが同じ問題意識を持ち、他の地域に波及させていくのかについて考えた上で、SDG sを考えるべきだと思います。国連でも発表されていますが、投資機会として2030年までに年間で約12兆USドルの新しい市場規模が生み出されます。加えてSDG s、ESG投資、PRIの中で表現されており、キーマンとなるフィナンシャルイノベーションのアクションプラットフォームに国ではなく、行政がどれくらい、どういった形で拠出をするのか。また、SDG sにどれくらい関わってくるのか。フィナンシャルエコノミーとリアルエコノミーがどのように関わってくるのかというところを踏まえてSDG sを理解されたうえでここを作っているのか、それとも単純にSDG sの17のゴールを網羅しているということが言いたいのかということです。つまり、SDG sに取り組むことが2030年の神奈川の経済をこれだけ豊かにする、神奈川の経済を豊かにすることがMDG sにつらなっている途上国や周辺地域に対してこういう影響を及ぼしていくということまで踏まえたうえで本来であれば表現していくべきところなのかなと思います。短い期間でここまでご努力されたということはよくわかるので、そういった面が少しでも垣間見られるような表現があれば良いと思います。今のこの形だと、SDG sがフォロワーとなって神奈川に機会を生むのではない、SDG sのために消費をするもしくは自分たちがボランティアをするとかお金を投じていくとかそんな経済の発展や将来の何かのためにということではない、過去を振り返って改善のために何かをやっていくというふうに見えてしまって、非常に残念だと思っています。そういったことを踏まえたうえで、どういった形で表現していくのか、また今後どう取り組んでいくのかということが少しでも垣間見られたりすると、そういうところまで考えているのだということが分かって、矢島委員が先ほど指摘されたような何を表現したいのかということも、少しは明確に、もちろん明確にしようがない部分もあると分かってはいますが、整理が進むと思いますので、垣間見られるような表現の工夫がなされると良いのではないのでしょうか。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。平田委員はこの件に関連してということで良いでしょうか。それではお願いします。
- **平田委員**：70ページの表記のところなのですが、17のゴールの絵がすごく小さいと思いました。あと、県の主な取組みのところは、具体的に神奈川県を取組みを書いてあってこれは良いと思ったのですが、71

ページの「県の主な取組み」とSDG sのゴールとの関係の記載はなくても良いのではないかと思います。70ページの主な取組みくらいの表記だけでも良いのではないかと思います。

- **牛山部会長**：ありがとうございます。この件に関して他にご意見はございますか。
- **杉田委員**：難しいことなのだと思いますが、一覧表で整理したうえで、考察というかそういうものが若干必要だと思いました。つまり、先ほどの意見とも関連するのですが、政策分野とゴールとの関係性を整理してみた結果、このあたりは充実しているけれども、このあたりは不十分、今後の展開が必要だとかいうことが分かってくるのではないのでしょうか。例えば、72～73ページを見ると、単純に数で比較できるものではありませんが、非常に多くの政策分野で対応しているSDG sのゴールがある一方、そうでないところも見受けられるので、そのあたりについて何らかの考察、まとめの表現が必要ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。表記の仕方、また内容についてもご意見をいただきましたが、事務局、いかがでしょうか。
- **中谷政策部長**：3人の委員からご意見をいただきました。まず、もう少し歴史的なところからSDG sを表現して分かりやすくできないかということにつきましては、68～69ページにその趣旨を書かせていただくと同時に、その前の扉のページにも、限られたスペースの中ではありますが、経過を書かせていただいております。確かに、SDG sはMDG sというところから始まっているということは表現されていませんが、どこまで遡って記載するのかということもありますので、このようなご意見があったということは受け止めさせていただきます。次に、表のアイコンが小さいということでした。現段階ではこの表自体も職員が作成したものでございますが、最終的にはデザイン会社にもう少しきれいに、分かりやすく見やすいものにしてもらおうと思っております。いただいたご意見を踏まえたうえで、校正の段階で工夫できればと考えています。最後に、考察が必要とのご意見でした。結果として読み込めなかったということかもしれませんが、県としましては、考察に相当するものを68～69ページに記載しております。総合計画とSDG sの関係を記載するにあたっては、17のゴールとのつながりを調査し、その結果、72～73ページの表のように、どのプロジェクトとどのゴールが関係しているのかということが整理できました。そのうえで、68ページの最下段の記述にあるように、「SDG sの理念は、県がこれまで進めてきた『いのち輝くマグネット神奈川』の取組みと軌を一にするものと考えます。」という表現にまとまっています。つまり、17のゴール全てに関わっていたということが調査の結果わかったので、県の取組みを進めることがSDG sにも貢献するというので、69ページの最下段に「SDG sを座標軸に、政策を更に進化させ、県として果たすべき役割や使命を実行することで、世界がめざす持続可能な社会の実現に貢献していきます。」と表現させていただきました。また、県はSDG s先進県として先頭を走っていきたいという趣旨も同じ69ページに記載させていただいておりまして、できる限りの表現をさせていただいたつもりではありますが、今のご意見も踏まえて最終案を考えていきたいと思っております。
- **伊達委員**：SDG sが狙っているところの1つに経済効果、経済効果予測というものがあるが国連（UN）の中で表現されています。その項目をどう扱うかも非常に重要ですが、これに加えて、経済効果というものを県内、国内、国外も含めて、さきほどお話しさせていただいたESG投資というもの、これにどうお金をかけるのか、どういうふう投資をするのか。投資をしたときに、環境であったり、社会であったり、ガバナンスであったり、これを、神奈川県を一つの企業として見たときに、企業内でガバナンスがしっかり効いた形でこれらが動いているのかということであったり、いろいろな形でESG投資の観点でSDG sへのクロスの評価体系というものも既に存在しています。こういったものを含めて、どこまで計画の中で表現をするのか。分かっているけれど、そこまでは表現していないところを含めて、一応持って

おいた方が良いと思います。歴史をすべて理解することではなく、重要なのは、このゴールについてどこまで理解していて、その内の「ここの部分を県民に対しては表現しています。」、「それ以外のところは、全て表現するのは難しいので表現していません。」というものでも良いのかもしれませんが、いずれにしても、もっと俯瞰した形で、SDGsを理解した上で、県政がどのようにコミットしていくのかというところが必要です。我々からすると表層的な理解に留まっていると思われるのは非常にもったいないし、ある意味、そのように捉えられてしまうこと自体が悔しいし、そういう中で「いや分かっています。そこは、順次表現していきます。」ということが大切です。多分ほとんどの政策は、ブラッシュアップされていくと思いますが、ブラッシュアップしていくためにここであえて何を表現するのかというところに工夫があると、より成果が上がっていくのかなと思います。

- **牛山部会長**：具体的にこの計画の中で、例えばこんな風に表現を変えたら良いのではないかなど、何かご提案はありますか。
- **伊達委員**：例えば「健康寿命」のところかというと、個々の財政運営の移管のところなどを財政的なところで考えたときに、いわゆる努力点数という評価がありますが、神奈川県はポジティブな点数はついていないと記憶しています。その点数がポジティブに変わっていく際に、未病産業の点数があがっていくなど、有機的につながっていくということを手く表現するような仕組みを作ることができれば、今お話しした神奈川県でできた例えば高齢化対策といったようなものについては、場合によっては遠隔医療につながっていき、また医療費の削減につながっていったり、その遠隔治療といったところが、ベンチャーが生まれてきて、それが海外に展開していった場合には、海外でもSDGsの中における「健康」というところに対してコミットしていきますというように、何か一つで表現をすることは難しいですが、いろいろなものの組み合わせの中で、結果的にこのようになりますというサンプルを手く計画の中から抽出して、こういう形でやれば、県として、これだけの医療費の削減効果があって、かつ未病のポジティブな改善があり、産業を生み、それが海外のある問題を解決していくというような連携した部分に分かるように手く表現すれば良いのかなと思います。色々なところを紐解いて読んでいけば、ユニバーサルやヘルスケアなどエッセンスが散らばっているのは理解していますが、そこをもう少しストーリーとして表現したところがあれば、牛山部会長がご指摘されたような具体的な推進を表現ができるのではないかと思います。
- **中谷政策部長**：SDGsを推進するための取組み方針に関する冊子は別に作っており、あくまでここでは神奈川県の全ての政策の基本的指針となる実施計画を策定していくための議論をしていただくこととなります。ですからプロジェクトがメインであり、それとSDGsとどうつながるかを表現するためのページだということをご理解いただきたいと思います。そのなかで最大限、見やすさを追求していますが、こういう取組みが、こういうゴールにつながっていくということを表現させていただいた結果、このような形になっています。その趣旨をご理解いただいた上で、今回は、様々なご意見をいただきましたので、それを含め、再度検討させていただきたいと思います。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。分かりやすさなど、ご指摘いただいた内容について反映できるような余地があるのか、これから検討していただけたと思います。
- **矢島委員**：SDGsの表については、72・73ページの方が網羅的であるのに、この一覧表を後にしている理由はあるのでしょうか。プロジェクトの取組み全体を網羅されていて、説明としては、こちらを前に持ってくれば、どのような取組みがゴールに結びついているのか、そのつながりを皆さんにイメージしてもらい、そのあとで具体的に詳しいつながりが分かるような例をあげていけば分かりやすいかと思います。
- **中谷政策部長**：その議論も庁内でした結果、今の形になっています。前回は事例を取り出して記載をし

ていましたが、今回は17のゴールのすべてを限られたスペースの中で表現することを最重点に置いた結果、この形になっています。おっしゃる通り、ターゲットのページを先にするという議論もしてはいますが、17のゴールにつながる方を前に出したいということで優先順位をつけています。そういったご意見をいただきましたので、もう一度検討したいと思います。

- **矢島委員**：今のご説明で、実施計画がメインだとのことでしたが、実施計画がメインでそれがSDGsにもつながっているということであれば、やはり72ページの表が先にくるべきではないかと思えます。
- **牛山部会長**：ありがとうございました。それでは、SDGsの部分についていろいろとご意見をいただきましたので、これらを踏まえて、どういった対応ができるかご検討いただきたいと思えます。ほかの項目についてはいかがでしょうか。
- **関委員**：2点お話しします。1点目は、新しいデザイン案について、ちょっとフォントが小さいのではないかということです。40歳半ばくらいから老眼が始まるということを考えると、この計画を読むであろう方々の多くが老眼なのではないかと思えます。そうすると、少し文字が小さいのではないのでしょうか。現在の計画案と比較すると、新しいデザイン案はヘッダーが広がっています。SDGsの話は重要なのですが、各プロジェクトのページのSDGsアイコンの部分は現在の計画案の方がわかりやすいので、この部分を細くして、少しでも本文のスペースを広くとって文字を大きくしてほしいと思えます。2点目は、指標・KPIについてです。指標・KPIの一覧が配布されていますが、ここにある過去の実績値は計画には載せず、今日の議論のためにご用意いただいたものと思えます。ありがとうございました。ですが、やはり可能であれば計画に記載していただけると良いかと思えます。この計画の最終年度である2022年が4年後ですから、ちょうど4年前の2014年からの数値を載せることで、どう変化しているのかわかりやすいと思えます。具体的には、例えばプロジェクト4「障がい児・者」の指標「相談支援専門員による障害サービス等利用計画等作成率」は2014年度から2018年度の間約20%増加しているのですが、2022年度の目標値は2018年度の数値から約8%の増加にとどまっています。つまり、増加幅が半分になっていることになりますので、それはなぜかという疑問が生じます。さらに103ページの説明を見ると、「全国的にみて低水準にある本県の相談支援専門員による作成率を全国水準と同程度とすることをめざし」と書かれています。これは非常にわかりやすいのですが、ここで言う全国水準が現時点で63.4%なのか、あるいは全国水準の今後の伸びを勘案して2022年度に63.4%となるだろうと見込んでいるのか、そこがわかりません。また、この全国水準をめざすということは、なぜ4年間の伸びが約8%にとどまるのかという説明にはなりません。そういったような説明がここに記載されていると良いと思えますし、目標値が低すぎるのではないかという疑問が払しょくされないのであれば、目標値を変えた方が良いのではないかという話になると思えます。過去の数値があれば、そういったことを子細に検討することができますので、記載されると良いと思えます。そういった観点で、100ページのプロジェクト1「未病」から順に見ていきますと、指標「平均自立期間」は「増加率が最も高い都道府県の増加率をめざし」と非常にわかりやすく書かれていて、明確な説明になっています。ですが、次の指標「特定健康診査・特定保健指導の実施率」を見ますと、「国で定められた目標値と同程度になることをめざし」と書かれていて、これはこれでわかりやすいのですが、実際の数値を見ると、2014年度から2016年度の間2.4%しか増加していません。これを2022年度までに16.2%も増やすという目標値を掲げているので、本当にこんなに増やすことができるのかという疑問が湧いてきます。できるということであれば、その理由が知りたいですし、そういった点の説明を加えていただきたいです。続いて101ページを見ると、プロジェクト2「医療」の指標「地域医療が充実している二次保健医療圏の数」に「県内の二次医療圏は9圏域」と書かれていますが、なぜ9圏域なのかという説明がありません。その下の指標「75歳未満の10万人当たりのがんによる死亡者数」では「直近10年間の減少率を上回る水準をめざし」と書かれていますが、10年間の減少率が示されていないとよくわかりませんし、さらに、どの程度上回るのかということもわかりません。102ページのプロジェクト3「高

齢者」の指標「死亡者のうち在宅で看取りを行った者の割合」では、2015年度の14.1%が2016年度には16.0%に上がっているのに、2018年度の実績見込みはまた14.6%まで下がっています。こうした上がり下がり下がりしていることを勘案して、今回の目標値を設定したのかという点について、説明が書かれていません。指標「長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしている人の割合」では、「実績値が半数を下回っている現状を踏まえ」と書かれていますが、なぜ60%を目標にしたのかという説明がありません。103ページのプロジェクト4「障がい児・者」では、1つ目の指標については先ほどお話しした通りですし、指標「障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思う人の割合」には「これまでの最高値を上回る水準をめざし」と書かれていますが、なぜ50%を目標とするのかという説明がありません。こういったところについて、もう一言、二言、説明が入らないと、目標値が適切なものなのか、理解することが難しいと感じました。

- **牛山部会長**：ありがとうございます。最初の、文字の大きさについては、なるべく大きくなったら良いと思いますが、全体の量との兼ね合いもありますから、デザインなど工夫していただけたらと思います。指標・KPIについて、いろいろなお指摘がありました。ひとつひとつ説明をするというのは大変だと思いますので、考え方といったことについて、事務局から教えていただければと思いますが、いかがでしょうか。
- **池田総合政策課長**：まず、過去4年間の実績値についてですが、紙面の都合もあり、なかなか入れるのが難しいということで、掲載していません。ご指摘いただいた内容について、指標については紙面のスペースに余裕があるということで、入れられるなら入れた方が良いというお話だったと思いますが、私どもとしても、これまでの評価報告において実績値はすべてお出ししていますので、継続している指標についてはそちらを見ていただければと思います。また、指標・KPIの説明ページについて、数字の確からしさについて証明できるように具体的な記述をというご意見をいただきました。考え方でございますけれど、とにかく半分以上にしていきたい、もっと上げていきたいというところはあるけれども、具体的な数字は何%にしたらいいいのかというのも、原局の方でも検討した結果として、6割位に上げていきたいという考え方で整理をしています。基本的には、もっと上げていきたいというのがありますが、具体的には、4年間でどこまで上げていくのかという数字を出ささせていただいています。それと先ほどありましたように、現行数値がかなり低くなっておりまして、4年後には、もっと数値を上げていくという数値目標になっていることについて、その辺の確からしさというお話がありましたけれども、先ほど関委員が言われたとおり、国の目標に合わせていくということで、個別計画の方で整理させていただいておりますので、その計画の数字を置いているところであり、それに合わせた施策の展開をこれから行っていく必要があると考えているところです。具体的にどうやって担保していくということは、今後の施策の展開の中で個別計画にもあります、国の計画に基づく目標数値の実現に向けて行っていくということです。今いただいたお話につきましては、分かりやすい表記に努めていきたいと考えております。ご覧いただくと、ここの数字も細かく書いておりますので、これでも大分細かく書かせていただいているので、今お話があったように細かすぎる部分もありますので、これ以上なかなか増やせない状況にあります。少し整理ができる部分については、整理をし、記載の内容を充実できるのであれば、そのようにしていきたいと考えております。
- **関委員**：ありがとうございます。まず、お配りいただいたものの中からいくつか本体に入れてはという話は、スペースの関係もありますので、趣旨が伝わっているのかが、わからなかったのですが、全部の数字を入れる必要はなく、できれば4年前の数字を、それがなかったら、その次に近い数字を取り上げていけば、スペースはあるのではないのかというのが趣旨でした。もう1点の方も、この小さなスペースで、どれだけ説明するのか難しいところですが、私が例示しました障がい者の例のように、以前は20%達成していたのに、今回何故10%だけなのかというときには、やはりその理由が入っていた方がいいのではないかと思います。ここは何故だろうというところには、理由を入れていただいたほうが良いと思いました。指

標やK P Iの説明している箇所にスペースがないのであれば、一般的な説明の部分は短くして、設定した理由に重点を置いてスペースを使っていたら良いのかなと思います。

- **牛山部会長**：ありがとうございます。それでは、具体的なお話をいただいておりますので、その中でこれは入れないとわからないとか、根拠に関する事とか、また、スペースの問題もありますし、例えば、二次医療圏が何故9圏域なのかというところまで説明するとすると、非常に細かい話になりますので、事務局と相談させていただきながら検討したいと思います。他にはいかがでしょうか。
- **松行委員**：1点目については、左の指標というのは、本当に指標というネーミングでよいのかと思いました。指標と書かれていますが、これは結局目標だと思います。それで、この指標というタイトルでいいのか疑問に思ったところです。次にK P Iについてですが、このページに、これだけ細かく各年度の数字を入れる必要があるのかと思いました。このページは、おそらく県民の方とか各自治体の職員の方が一番見るところだと思うのですが、各年度について細かくどこまでやらなければいけないのかということは、あまり関心がないのではないかと思います。なので、2018年と2020年、場合によってはその前の状況だけで、4年間のK P Iを数字は県の職員の方が一番見るところではないかと思うので、後ろの方に記載して、文字を大きくするかその方が皆さんには読みやすいのではないかと思います。
- **牛山部会長**：事務局からはいかがでしょうか。
- **池田総合政策課長**：指標とK P Iという話で、10月の部会の時にご議論いただいております。指標とK P Iについては一定程度ご理解いただいたという認識をしているところでございます。具体的には指標の方は、今、松行委員がおっしゃられたとおりプロジェクトの達成度合いを象徴的に表すものということで、最終アウトカムのものを書かせていただいております。これにつきましては、最終年度の目標数値を示させていただいていると整理をさせていただいております。K P Iの方は、これまでは、このページはバーチャートといわれるもので、具体的な取組みをどう行っていくのかということを示していましたが、内容によっては、あまり変化をしない状況があり、バーチャートだと達成状況の評価などにあまり役立たないのではないかとこの話が我々の中でありましたし、ご議論の中でもそのような話があったと聞いておりますので、バーチャートはやめていこうということで、K P Iで具体的な事業の進捗状況の管理ができるようなかたちで、毎年度の目標数値を設定してそこを共有させていただき、毎年度評価報告をしていただいておりますが、直接の県の取組み状況がわかりづらいというお話もありましたので、毎年度のK P Iというかたちで具体的に県の取組みの進捗状況を管理できるよう加えさせていただいております。毎年度評価いただくときには、これを一つの参考にしていただきながら、社会状況の変化やそれぞれの具体的な数値データ等を参考にしながら総合評価に使っていき、秋口には、今後どういう評価をしていくのかご議論いただくこととなります。事務局サイドとしては、K P Iを中心にしながら皆さんに評価いただくことで、このような表記をさせていただいているという状況でございます。我々が数値管理のためにおいているということもありますが、県民の皆様も含めて、我々の事業の評価をしていただくための数値目標ということで出させていただきます。
- **中西委員**：私はK P Iに途中があるのは、途中の経緯がわかって、関心があることについて、どれだけ進んでいるかがわかるので良いと個人的には思います。もう一つ、指標というのは、前に議論した時に単なる目標ではなくて、物差しであり、目標的性格をもった物差しであると私は理解しています。凡例のところに指標とK P Iの説明がありますが、ここだけでしょうか。これでは若干わかりにくい気はしますが結構重要なものであるにもかかわらず、凡例だけでいいのかと思うところですが、特に99ページの表紙のところに、指標とK P Iの説明が並んであってもいいのかなと思います。凡例のところを見ると例えば指標のところに「達成度を象徴的に表す数値を参考に」と非常に丁寧に、少し言い訳みたいにして書いてあります

けれども、こちらに参照させるか、プロジェクトの指標・KPIのところに書くというのもあって良いのかなと思いました。

- **松行委員**：補足として、誤解のないよう申し上げますと、私はこのKPIの5年の数字がいらないと申し上げているわけではなくて、皆が読むこの場所にあるべきか、場所についての意見になります。
- **池田総合政策課長**：我々としても、これまでバーチャートとしていた中で、この形が一番わかりやすいだろうと考えたところです。フォントの問題も含めて検討していきますが、ここについては、今の状態を変えるのは難しいように思います。それと、中西委員の指標・KPIの説明につきましては、99ページの扉の四角部分に「設定の考え方を示しました」と書いてありますので、こちらのところで工夫して説明を加えるなどの検討をしたいと思います。
- **岩田委員**：以前から、神奈川県の実践をどれだけ県民に理解してもらい、最終的にどういう評価ができるかという議論が大切だと申し上げてきました。コミュニティという言葉に前も触れましたけども、黒岩知事が唯一自分の言葉でおっしゃっているのがコミュニティの再生による「笑いあふれる100歳時代」、これをめざしており、これに向けて色々な戦略でやっていくということだと思います。それでは、県民に、コミュニティの再生ということなのか、どういうことが再生されているのか、最終的にはコミュニティが再生されることによって「笑いあふれる100歳時代」が訪れるという感覚だと思うのですが、それに関してどこに説明があるのかということに気になっています。もちろん、プロジェクトには、それぞれ「コミュニティ」と入っていますから取り組んでいくのだと思うのですが、コミュニティの再生というのは企業や団体などとの連携があって初めてできることだと思うので、具体的に旗を挙げ、それらとどう連携していくか、かつ、プロジェクト毎にどういう形でやっていくかということが大事だと思うのです。それらに地道にやってきたからこそ、これだけコミュニティの再生ができましたと、県民に示せると思います。そういった、わかりやすく県の取り組みの成果をどのように伝えるかということについて、どのようにお考えか質問です。また、そういった観点から県民にわかる形でのフィードバックが必要ではないかという意見を申し上げます。
- **池田総合政策課長**：コミュニティの再生は知事の政策集の中で、ここにきて出てきたものです。我々としてもコミュニティ再生をどうやっていくのか、まさにこれからの議論だと思っています。我々6月1日付で人事異動になります。その関係で、職員の体制もコミュニティの再生に関するような組織をつくりませんが、こういった形でやっていくか、4月から市町村を回って確認しているところです。委員のご意見とおおり、コミュニティの再生は市町村がこれまで中心になって取り組んできて、あるいはNPOなどが取り組んできた中で、我々広域自治体としてどういう形でどこまでやるか、県としてどのような支援や関わり方がよいのか聞き取っているところです。具体的な施策については計画に書かれていないので、審議会のご意見もあって79ページでコミュニティに関する修正を加えさせていただいたところです。こうした形で、今、明確にやろうとしていることとして、「課題や優良事例の情報共有の場づくり」を行っていくと、現在書けるところは書いているところです。そして、具体的には、これから市町村や企業、NPO、団体を含めてどうやっていくかを考えていきたいと思います。コミュニティについては、他の市町村の事例、失敗事例もありますし、成功事例もあると思います。そういった事例を他の市町村は持っていないので、情報共有していきたいというお話も聞いております。まずは、県としては課題や優良事例の共有を図った上でどういった施策や支援を行っていくか、あるいは市町村としてどういったことをやっていただければコミュニティが再生できるのか。コミュニティというのも市町村や自治会だけではなくて、例えば、趣味の団体も小さなコミュニティですし、1対1の関係でもコミュニティの関係が成り立つこともありますので、どういったコミュニティが今後必要になっていくのか、どう考えていけばよいのかを含めて考えていきたいです。それと県民へどういった形で情報提供していくか、今回も素案をパブコメするときに見



ていただいたカラーの概要版ということで、厚い本を作成してもなかなか見ていただけないということもあり、エッセンスとして気になる部分があれば、本体を見ていただくということで、ホームページに誘導するなり、あるいはご意見いただければ、お渡しをするというという取組みをしています。この本が出来上がった際にも、同じような形で、この本のエッセンスを入れ込んだ概要版を作る予定であり、最終的に、この本が確定して出来上がった際には、もちろんこの本についてはホームページ等で公開をさせていただき、県民の皆様に見ていただきますが、この本だけではなく、見開きの概要版を作って、PRしていきたいと考えています。今回のパブコメの際に用いた概要版については、ゴールドデンウィークに県庁の庁舎公開を行い、2万人もお客さんが来られましたが、その際にもお配りして、ご意見をいただくのに活用したり、一通り配布したり、大学で配布し、大学生に目を通していただくような取組み、あるいは、連携協定を結んでいるスーパー等に配布するなど、なるべく県民の皆様目に留まるような形で、まずは概要版でキャッチし、より深く見ていただく場合は本体を見ていただくような取組みをしています。また、SNSによる情報発信などを始めさせていただいています。

○ **牛山部会長**：コミュニティの再生については、審議会の意見もあり、事務局からの回答もありましたが、コミュニティのとらえ方はいろいろあると思われる。知事が再生と言っているの、地域コミュニティには問題があると思われる。なかなか難しいと思われるのは、広域行政体である県が、究極の狭域行政であるコミュニティの問題にどこまで取り組むかということでご苦労しているかと思いますが、県内のコミュニティの事例を集約し提供したり、政策提言するなど、いろいろな役割があるかと思いますが、これからもご検討いただきたいと思います。

○ **伊達委員**：量的な改善が、質的な改善にどうつながるのか全く見えてこないと思います。全部を通じて共通して言えることですが、課題の定義があって、そのために何々に取り組みます、そのための数値はこうですと記載されていますが、この課題の背景がどうなっていて、その課題が解決されればどうなるのかというようなことが、全く見えません。特に、医療のところを見るとすべて量的な数を増やしていく、未病について考えていくと、未病が浸透すると量的な担保は必要なくなるのではないかと、みんなが元気になれば、医療は必要なくなると思える。取り組まれようとしていることが、その中でコンフリクトを起こしているようなものもあると思います。また、未病について、うまくいっていると耳にしたことがありますが、平成30年の保険者努力支援制度に基づく平均点数を見ると、神奈川県は全体の中で44位であります。東京都は、47位なので人口が増えれば増えるほど難しいということが、容易に推察されますが、いわゆる得点はほとんど未病につながっているといえます。例えば、特定検診、メタボ検診受診率、ガン検診の受診率、データヘルスの増進率、その他重症化予防等がほとんど未病につながっています。その数値が、全体の中で44位になっているのに、神奈川県はうまくいっている。うまくいっているのに、人数を増やさなければいけないのというような、ロジックをどんどん積み上げていくと、矛盾してしまうというように、見受けられることが、問題かと思えます。その点を、どう工夫して、表現をもう少し整理するのかということがあります。もう1点、いつもお願いしていることですが、人と金がどのように動いているかまったくわかりません。県の中で、いわゆる適材適所で、きちんとこういう事象を理解している人が動いていて、それに対してどれぐらいの予算が組まれているのか、その予算がどういった形で実行され、その予算に見合う、例えば予算1千万円といったらSNSであれば使い過ぎだとか、いろいろと叩く傾向があり、予算というのは一般からすると、千円だろうが、1万円であろうが、1千万であろうが叩く対象となり、いかななものかと思いますが、他の民間で行った場合は5千万円かかることを、1千万円で発注して同じ結果を求めるということは、無理だということ容易に理解できますが、そもそも、どれだけの人材を確保しますか、そして継続してその理解が県庁の中で深まっていくか、県庁の中で十分に吸収できない体制であれば、それをどういった形で、例えばソーシャル・インパクト・ボンドということが言われていますが、外部委託した場合は県庁職員のコストがそもそもかからないということになり、その時にどれぐらいのことができるかということも含めて、本来は見ていかななくてはならないと思えます。このよう

に、数字の目標だけ出してしまうと、どのくらいのお金をかけて、どれくらいこれができているかということを含めてレビューができないので、レビューが片手落ちとなってしまいます。ただ、数値をすべて出すということが手法ではないということはおわかっていて、そういう指摘を受けないような、もしくは他のところでこういうものがあるというように、そちらを参照してください、SDG sはこちらを見てくださいというような、もう少し丁寧に説明していくことを、しっかりと検討していただければと思います。

- **矢島委員**：先ほど見せ方で、SNSの話などが出ましたが、計画について紙面で表現することに限界があるかと思います。もちろん紙面で表すことも大事だと思いますが、計画の96ページや97ページで、さらに施策をクロスに展開していきますと言っており、また今回SDG sを絡めて施策をクロスさせていく中で、紙面で表現することはかなり厳しいことかと思われま。この計画にもICTの活用やウェブサイトとか記載されていますが、ウェブサイトに載せるときにはPDFで載せられていますが、PDFでなく、各施策と実際の現場の取組みとのリンクを張るとか、あるいは関連する多様な担い手との連携が記載されていることから、多様な担い手の活動とのリンクを張っていくとか、計画期間中に実際に何がどう動いているのかということが、サイト上から変化を見ることができれば、若い人たちにはその方が普及するかと思います。それと、SDG sに関しても、国連のサイトとの連携や他国の活動している事例とリンクしていくと、伊達委員が言われている、取組みが神奈川県だけで完結するわけではないということが、若干表現できるのではないかと思います。
- **牛山部会長**：それでは事務局いかがでしょうか。
- **池田総合政策課課長**：伊達委員からお話のあった予算の関係について、まずお答えさせていただきます。今回の計画書の中でプロジェクト事業費がいくらなのかまだお示ししていません。第2期実施計画では、主要施策・計画推進編で4年間のプロジェクト事業費がいくらか、それぞれのプロジェクトでいくらかということを示し、ご承知のとおり毎年の評価の際にどれくらい予算化したかという予算化率を見ていただけるような状況にしています。現在はまだ集計中ですが、まもなく6月補正予算が固まりますので、その予算も含めて、今後4年間のプロジェクト事業費をまとめていきたいと思っています。前回は4年間で4,800億円のプロジェクト事業費を見込んでいたと整理をしていましたので、最終案の時には同様にプロジェクト事業費として予算を示していきたいと考えております。それから、矢島委員からお話がありましたSNS等の活用について、ホームページでは資料等をPDFで掲載していますが、県の情報セキュリティの関係もあり、制限がかかってしまっているという事情があります。外部への情報流出を防ぐため、セキュリティは全国の中でも神奈川は厳重になっています。国の指針に基づいたセキュリティを行っているのは神奈川県ともう1自治体ぐらいしかないとされるぐらい厳しく、外部へメールを送る際に手続きをしないと添付ファイルを送れないほどです。それが良いのかどうかということもありますが、国の指針に基づいて実施するとそのようになってしまうということなので、情報サイドも含めて、どのような対応ができるか検討していきたいと思っています。また、各局の取組みのリンクを貼るということは可能かと思いますので、工夫できるよう考えていきたいと思っています。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。本日まだご発言がない委員からもお話をお伺いできればと思います。原嶋委員お願いします。
- **原嶋委員**：プロジェクトごとに指標は2～3つ、KPIは5～6つぐらい設定されているのかと思いますが、次の段階として評価を考えると、毎年の評価や4年間の評価をどうするのかということを見ると、第2期実施計画で参加して思ったこととして、KPIは数字的には達成・非達成を確認できますが、それらの相互関係や比重などをどのように考えているのでしょうか。KPIが順調に達成できれば指標の目標が達成できるという関係に上手くなっていれば良いと思いますが、必ずしもそうではないのかと思

ます。4年目の評価をどうするのか。また、凡例のところ、県の取組みによる効果とそうではないものがあると書いてあります。毎年の評価をどうするのか、4年間の評価にどう結び付けるのか。どのような考えで一次評価を行うのか、少しまとめといていただきたいと思います。なんとなく4段階で評価されてしまうとわかりにくいので、基準をクリアにしていきたいと思います。

○ **牛山部会長**：評価に関するご質問でしたが、事務局いかがでしょうか。

○ **池田総合政策課課長**：今回、指標とKPIを設定したのは、評価の際に県の取組みだけでは効果が出にくいものもあり、これまでの数値目標は県の取組みだけで左右される部分とそれ以外の部分が混在していて評価しにくいというご指摘もありましたので、指標は県以外の取組みも含めた様々な取組みや社会状況の変化によって左右される取組み、最終的なアウトカムとなるような目標としてプロジェクトの達成状況を判断できるものとして整理しました。KPIの方は、個別の県の具体的な取組みに対して、どの程度進捗が図られているかを数値的に判断できるものとして整理しています。原嶋委員がおっしゃる通り、指標についてはプロジェクトで2つ以上、KPIは具体的な取組みごとに複数以上ということで設定しています。評価をどのようにしていくのかということで、できるだけ具体的に評価ができるようにKPIを設定しています。これまでは一次評価で4段階評価を行い、グループ会議や部会を経て審議会で二次評価をしていただいておりますが、数値目標の達成状況のほか様々な要素を含めて総合評価をしていただいております。今回もKPIの達成状況も含めた総合評価になるかと思いますが、秋口に部会及び総計審の開催を予定しております、その際に次年度以降の評価の仕方についてご議論いただく予定ですので、それまでに私共で考え方を整理し、お示ししたいと思います。基本的には今の考え方にに基づき、KPIは具体的な数値が出ますし、指標についても、4年後の目標数値しかありませんが、実績値については毎年度示していきたいと考えておりますので、評価の際に参考とし総合評価をしていくということになるとは思いますが、私共の方で整理し、秋口の部会・総計審でお示ししていきたいと考えております。

○ **牛山部会長**：ありがとうございます。朱委員いかがでしょうか。

○ **朱委員**：前回の部会の後に事務局にはメールでお伝えしたのですが、計画書に使用する写真について、前回はプロジェクトによって写真が1枚のものもあれば、2枚のものもあります。今回の計画ではすべてのプロジェクトで2枚となっています。その中で、34ページの治安のプロジェクトの写真について、前回は安全・安心ということで白バイの写真でしたが、今回はパトカーと警察官の写真となっています。私がい気になったのは、警察官の写真の背景が中華街に見えたということです。余計な連想かもしれませんが、中華街は不安な街なのかということをおぼやかせしてしまうのではないのでしょうか。考えすぎかもしれませんが、特定されるような街並みを写真に使用しない方が良いのではないのでしょうか。

○ **牛山部会長**：ありがとうございます。事務局からは後ほどお願いします。能登委員いかがでしょうか。

○ **能登委員**：誰をターゲットとした冊子なのかということを改めて考えると、「マグネット神奈川」ですので、人を引きつけるような冊子であるべきだと思います。もちろん専門家が見て正しい内容であることは大事ですが、専門家から見て正しい文章というのは詳しすぎて、逆に県民にとっては分かりにくいという側面もあります。詳しすぎる文章というよりは、分かりやすく、勇気をもって省略するというのも大切なのかなと思いました。また、先ほどSNSの話がありまして、ホームページの話ですが、前にお話ししたかもしれませんが、神奈川県ホームページはよく拝見することがあるのですが、色味が暗いというか、紺色はいろんな色があると思うのですが、神奈川県が使っている紺色は暗くて、まじめな感じはしますがもっと引き付けられるような明るめにできればと思います。今回写真が使われていいなと思いましたが、本当に見てわかりやすいものの方がいいと思います。また、冊子の回遊

率を上げていくという意味では、例えば、今回、高齢者のところで、「福祉」の文字をとったということは、高齢者には雇用であるとか、学びであるとか、ほかのものも関連していくという説明をいただいたと思いますが、回遊率を上げていくために、高齢者のページを見たときに、雇用や学びのところも見てくださといった連絡ページのような様なものがあると、ほかのページも見てくれる人も増えるかもしれないと思いました。あと、冊子を見て驚いたのが、60ページの自然のところ、自然というタイトルに対して、ペットのいのちの輝く神奈川とあって、ペットと自然というのが、飼っている動物に野生を見るということは確かにあるかもしれませんが、少し合わないかなと、私的には違和感を覚えました。ただ、動物愛護というところは非常に自然とマッチしていますので、難しい所ではあると思います。

- **今井委員**：全体的な部分になってしまいますが、どうしてもプロジェクト編に目がいってしまい、プロジェクト編から主要施策編を見ていくと、整合性が感じられなくて、124ページのところに一覧表があってここで施策とプロジェクトとの関係性が表現されているとは思いますが。ただ、この計画の要旨が少しわかりにくいところがあって、計画体系に関する説明がもう少し詳しく書いてあるといいなと思いました。どちらかというと、具体的な計画の推進を含めて、主要施策編の方が、県民が見た場合に、地域別の計画とかもあって、少し興味深いかなどということがあって、これを見て、それに横串を刺されるようなかたちでプロジェクト編があるという感じで、主要な施策に選ばれている事業の中には、個別に重要な事業もあると思うので、そういったことも含めて何か、もう少しわかりやすく記載ができればいいと思います。
- **平田委員**：2点ほどですが、51ページの雇用のところですが、就業支援の充実ということで、今40代ぐらいの就業氷河期の世代への支援がだいぶ課題になっていると思うので、今から記載を追加するのは難しいかもしれませんが、就業支援の充実のところ、こうした世代への就業支援への取組みを記載してはどうかと思いました。それから、以前も申し上げたが、82ページの津久井やまゆり園事件との表記について、同じような表記が18ページにあります。こちらの表現の方が良いのではないのでしょうか。津久井やまゆり園事件といった言い方より、18ページの表現に統一した方が良いと思います。というのは、津久井やまゆり園にいた方が、津久井やまゆり園事件といったように呼ばれたくないといった話も聞いたことがあるので、18ページの表現に合わせていただければと思います。
- **池田総合政策課課長**：まず、朱委員からお話のあった写真の関係について、今デモンストレーション版でお示ししたものや案には、写真が2つ入っておりますが、写真の構成については、本にするときには、前回の計画では、写真が2つ入っているものや1つのものなど、かなりバリエーションがあって、写真の構成については、今後検討します。治安の写真については、お話しをいただいております。今の段階では直せていないですが、なぜこの写真が入っているかということ、今警察では、見せる警察、警察官が街頭に立っている、交番の前や駅頭に立っている、巡回警らを行っているなどによって、犯罪の抑止につなげていこうという考え方で取り組んでいまして、まさに警察官が警ら巡視を行っているところの姿を載せたということで、おっしゃる通り、背景がどこかということがわかることで不安を煽ってしまうといったこともあろうかと思っておりますので、場合によってはこの写真をそのまま使うのではなく、例えば背景をぼかして警察官を中心に入れるということで工夫できないか、また、別の写真がないかということで投げかけているところですが、あまりいい写真がなくて、警察官の募集の写真のような白バイなどのカッコいい写真を入れても治安の写真に合致しないといったことで、今回この警らの写真をいれさせていただいている状況です。わかりやすい表現、文章といったことで、能登委員からお話をいただきましたが、計画書自体は行政計画ということで、わかりやすい表現を心がけていますが、行政計画といったところで、説明調になってしまいます。そういったこともありますので、先ほどもお話ししましたが、計画書としてはこのような形になりますが、公表の段階では、概要版として、もっとわかりやすいものを作成することを考えており、ホームページの方にも掲載します。概要版を見ていただいて、興味を持っていただいて、より詳しく見たい方には、行政計画の本体の方も見ていただくといったことを考えています。なるべくわかりやすい表現、

難しい表現は避けたり、難しい用語については注釈も入れさせていただき工夫をさせていただきます。ホームページは青が多いといったこともありますが、県のカラーが一応青なので、青中心になっていると思います。以前はもっと見にくかったのですが、少しは改善されてきているとは思っていますが、いただいたご意見はホームページ担当の方にも伝えたいと思います。また、例えば高齢者のページで、それぞれ関連するプロジェクトを案内できる形の工夫ができないかといったお話がありました。そういった意味でいろいろなプロジェクトの組み合わせという形で神奈川の戦略を後ろの方で整理をしています。これは高齢者ではありませんが100歳時代の関係はそれぞれのプロジェクトの関係性も含めて右側のページにどこのプロジェクトに関係しているかということはお示しているで、そういった形で工夫をしているということとはご理解いただければと思います。それと60ページのペットの話ですが、自然の中にペットが入っているのはいかがなものか、ということですが、自然のプロジェクトにはいろいろな要素が入っております。環境という意味の自然の要素もあればペットの要素もあります。野生鳥獣の関係も入っています。野生鳥獣を駆除しますという要素とペットの要素が同じ自然のプロジェクトに入っているのはおかしいのではないかと、というお話は前回の計画を策定する際も色々と議論があったところなのですが、前回の第2期実施計画の際も同様にペットの要素を自然のプロジェクトに入れさせていただいております。神奈川県には動物保護センターが平塚にあります。犬猫を預かってきてこれまで殺処分をしてきましたが、殺処分をしないという方向を出し、なるべく引き取っていただくような考え方を整理させていただいておりますので、我々としては是非ともプロジェクトに入れていきたい、県の重点施策として考えていきたいということで、23のプロジェクトの中で一番そぐうのはどこかということで、自然のプロジェクトに入れさせていただいたところでございます。それと今井委員からお話がありました体系との関係、主要施策との関係のお話かと思いますが、主要施策編とプロジェクト編を分けておりますが、確かに我々はどうしてもプロジェクト編の方に目が行ってしまうということではありますが、そういった中で123ページにプロジェクトと主要施策との関係を、以前は整理していなかったのですが、こういった形で第2期実施計画からお示しています。今後工夫が出来るのであれば検討させていただきたいと思います。平田委員からお話いただいた雇用のところですが、51ページになりますが、いわゆる就職氷河期のみなさんのお話から前々回の審議会の方でもお話いただきまして、そういった表記を加えて方がよいということで、就職氷河期の記述を社会環境の変化のページに書いてございますし、51ページの具体的な取組みの「A就業支援の充実」の10目に「不本意ながら非正規雇用で働き続けている方や」と、いわゆる就職氷河期とは書けませんので、こういった形で書かせていただきました。就職氷河期の中で一番問題なのはいわゆる非正規雇用の方が多いということで問題になっていることなのでこういう表現で書かせていただいております。82ページの津久井やまゆり園のところですが、内部でも検討させていただきまして、公的な場面で県が使うときに津久井やまゆり園事件として使用しているというお話もありましてこれにつきましては被害にあわれた方々の意向も踏まえてやっているとございます。追悼式も含めて津久井やまゆり園事件と公式に使わせていただいておりますが、いまいただいたお話、18ページの方に表現を合わせた方が良いのではないかとということでしたがその点も踏まえて福祉当局へ確認した上で、入所されていた方の意向も踏まえながら表現を整理させていただきたいと思います。

- 牛山部会長：ありがとうございました。まだまだご議論があるところですが予定していた時間がまいりますので、もしまだご意見があるという方がいらっしゃいましたら、事務局の方へお寄せいただければと思います。皆様のご意見を出来るだけ反映できるように事務局と調整してまいりたいと思いますけれど、ご審議いただいた実施計画（案）について部会長の私の方に預らせていただいて、事務局と調整しながら総合計画審議会へ向けて修正をさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。
- 一同：（異議なし）
- 牛山部会長：ありがとうございます。それではそのように進めさせていただきますのでよろしくお願

いたします。それでは議題の2「その他」についてですが、事務局の方から何かございますか。

- **中谷政策部長**：政策部長の中谷でございます。本日は非常に長い時間、多岐にわたってご意見をいただき本当にありがとうございました。皆様から本日いただいたご意見を出来る限り反映できるよう真摯に受け止めてやっていきたいと思っております。「第3期実施計画」に関する部会での議論は、本日が最後となります。本日いただいた意見も含めて、県民からの意見をまだ反映できていないところもありますし、議会からの意見も集約して6月6日の審議会でのご議論を受けまして、今後、最終的な答申案をまとめていきたいと考えています。部会委員の皆さまには、追ってこの答申案について文書で照会をさせていただいた上で、審議会にお諮りし、総合計画審議会としての最終的な答申を作成していただく予定となっております。部会委員の皆さまには、引き続きご協力をいただきたいと思いますと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。そして、最後に一言だけ、皆様も既にご存知かもしれませんが、県は今年4月に知事選挙を行った関係で定期異動が今年度は6月となっております。先日記者発表をして、ご覧いただいている方もいらっしゃるかもしれませんが、体制が次回から変わりますので、その点だけお話させていただきたいと思っております。私は政策部長から異動になりまして、新しい異動先は政策秘書官になります。後任につきましては池田総合政策課長が政策部長になりますのでよろしくお願いたします。そして赤池課長代理がマグカル担当課長になります。その代わりに後ろに控えております柴山グループリーダーが課長代理になります。後任の課長につきましては本日傍聴に来ております佐藤企画調整官が総合政策課長になりますので、継続性を持たせて皆様が議論できるような体制を引き継いでまいりますので今後ともどうぞよろしくお願いたします。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。中谷政策部長と赤池課長代理、大変お世話になりました。ありがとうございました。それでは新体制ということでまた引き続きよろしくお願いたします。また先ほど原嶋委員からお話がありました評価のことなど色々あると思っておりますので引き続きよろしくお願いたします。それでは、本日の議事につきましては、以上をもって終了とさせていただきます。熱心なご審議をありがとうございました。